

LOBO 調査

早期景気観測

9月 日商調査日 9月8日～15日
当所調査日 9月8日～20日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

9月の全産業DI ▲9.0
(前月比+0.1ポイント)

○中小企業の景況感

建設業では、国土強靱化事業をはじめとする公共工事の受注が堅調に推移し、改善した。小売業では、高付加価値商品の販売やインバウンド需要が好調な百貨店が下支えし、改善した。

また、卸売業でも小売業からの引き合い増加で改善した。一方、製造業では、円安の伸長による輸入部材の価格高騰により悪化した。サービス業では、慢性的な人手不足により、飲食・宿泊業を中心に、悪化となった。

各業種の業況はまだら模様となったものの、エネルギー価格の高騰によるコスト増や深刻な人手不足など、業種を問わない課題は山積しており、中小企業の業況は4か月連続で足踏みが続いている。

○先行き

先行き見通しDIは▲12.9（9月比▲3.9ポイント）
インバウンド需要の継続的な回復や、

個人消費の拡大を期待する声が聞かれている。一方で、円安の伸長やエネルギー価格などの高騰でコスト増が続く中、賃上げ対応に必要な価格転嫁も十分に行えておらず、収益圧迫が続いている。

また、地政学リスクの高まりで世界情勢も不安定な中、インボイス制度や働き方改革など対応すべき課題も多く、中小企業の先行きは厳しい状況が続く。

【関東ブロックの業況についてのコメント】

円安が伸長しており、輸入部材が再び高騰している。加えて、電気・ガソリン代などのエネルギー価格の高騰により上昇したコスト分の価格転嫁が追い付かず、採算は厳しい状況が続いている（建具製造業）

扶養の範囲内で働きたいとする者も多く、人手不足は単純に賃金を上げるだけでは解決しないと感じる（旅館業）

当所調査

「3か月連続景況感回復、価格高騰の影響も続く」

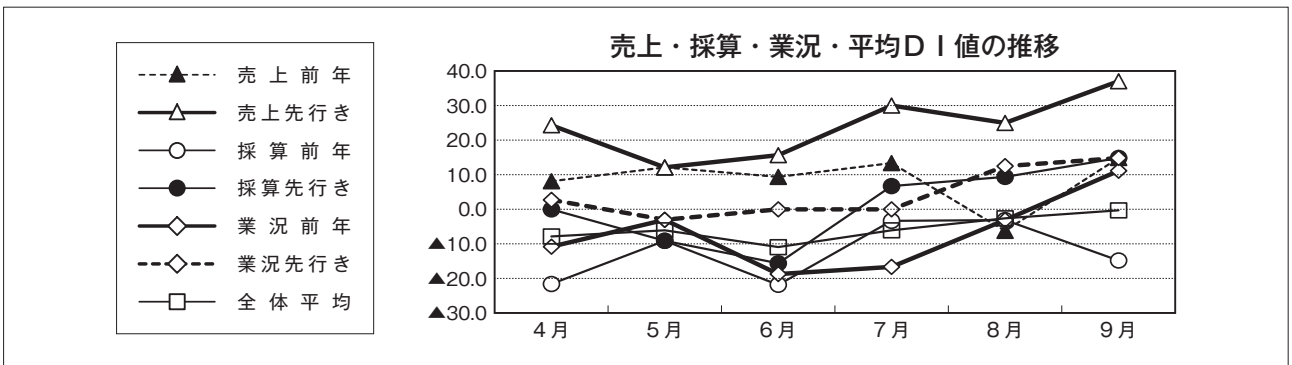
全体平均DIは▲0.3で前月に比べ2.3ポイントの改善。項目別では、売上先行き12.0ポイント、業況前年は14.2ポイントの増加が見られた。コメントには「業況は改善したように思えるが、原材料・人件費高騰で利益が上がる」（飲食店）や「半年以上求人に応答がなく、慢性的な人手不足だ」（建物・土地売買業）といった景況感は徐々に回復しているが、依然として物価高騰・人手不足などによる影響が伺えた。

(全産業)

水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移)

(サンプル数40社)

項目	令和4年		令和5年				
	9月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上前年	9.7	8.1	12.1	9.4	13.3	▲6.3	14.8
売上先行き	0.0	24.3	12.1	15.6	30.0	25.0	37.0
採算前年	▲22.6	▲21.6	▲9.1	▲21.9	▲3.3	▲3.1	▲14.8
採算先行き	▲29.0	0.0	▲9.1	▲15.6	6.7	9.4	14.8
仕入前年	▲77.4	▲67.6	▲66.7	▲71.9	▲80.0	▲65.6	▲74.1
仕入先行き	▲71.0	▲64.9	▲51.5	▲65.6	▲73.3	▲62.5	▲66.7
社員前年	19.4	29.7	24.2	25.0	33.3	31.3	22.2
社員先行き	19.4	18.9	27.3	25.0	26.7	28.1	29.6
業況前年	▲6.5	▲10.8	▲3.0	▲18.8	▲16.7	▲3.1	11.1
業況先行き	▲9.7	2.7	▲3.0	0.0	0.0	12.5	14.8
資金前年	▲6.5	▲10.8	▲6.1	▲9.4	▲3.3	▲3.1	▲3.7
資金先行き	▲3.2	▲2.7	0.0	▲3.1	▲6.7	6.3	11.1
全体平均	▲14.8	▲7.9	▲6.1	▲10.9	▲6.1	▲2.6	▲0.3



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数-減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するもの。